

古代エジプト新王国時代におけるチャリオットの構造と装飾の一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): Ancient Egypt, New Kingdom, Chariot, Structure, Design 作成者: 岡部, 睦, OKABE, Mutsumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064092

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



古代エジプト新王国時代におけるチャリオットの構造と装飾の一考察

人間社会環境研究科 人文学専攻
岡 部 睦

要旨

本稿では、古代エジプト新王国時代の二輪馬車である「チャリオット」について、既往研究にて考古資料の希少さから十分に研究されてこなかった形状の変遷や、用途による構造の違いを明らかにすることを目的に、考古資料9点と図像資料135点の双方を研究対象とし、チャリオットの構造と装飾において包括的な検討を行なった。また、チャリオットの車体の形状と装飾、車輪の形状について、それぞれ分類を行なった。分類と分析の結果、トトメス4世以前のチャリオットの表現には描かれ方の規範がうかがえる一方で、アクエンアテン王の治世以降からはその描かれ方にもアマルナ美術の影響がみられ、年代による形状の変遷が確認できた。加えて、図像が描かれる主題によりチャリオットの描かれ方の特徴が異なり、重視される用途として公用のチャリオットから実践的なチャリオットへと変容する傾向が明らかとなった。

キーワード

古代エジプト, 新王国時代, チャリオット, 構造, 装飾

Remarks on the Structure and Design of the chariot in Egypt, New Kingdom Egypt

Division of Humanities, Division of Human and Socio-Environmental Studies
OKABE Mutsumi

Abstract

In this article, I discuss the structure and design of chariots, which is a two-wheeled carriage from the New Kingdom of Ancient Egypt, through nine archeological remains and 135 iconographical examples. The purpose of this article is to clarify the changes in shape that have not been sufficiently studied due to the scarcity of archaeological remains in previous studies, and the differences in structure depending on the use. In particular, I examined the typology and chronology of the shape and decoration of the chariot's body and the shape of the wheels, which previous research has not sufficiently investigated. Results show that there was a style of depiction of the chariot until the reign of Thutmose IV and effect of Amarna Art following the reign of Akhenaten. In addition, the modification of the chariot structure and designs, from official use to practical use, was found to be applicable to the expression of chariots.

Keyword

Ancient Egypt, New Kingdom, Chariot, Structure, Design

1. はじめに

古代エジプトにおいて、シリア・パレスチナからの人々の流入や地中海地域との交易の様相は、諸地域からの原料や技術を用いた考古資料や図像資料からうかがうことができる。本稿で取り扱うチャリオット（二輪馬車）は西アジアを経てエジプトに導入されたという経緯を持つため、物質文化の伝播に関する重要な資料であるといえる。本稿では特に新王国時代のチャリオットについて、考古資料と図像資料の双方から、構造や装飾の変遷、それぞれの時代における特徴、用途ごとの特徴について明らかにすることを目的とする。チャリオットの形状の変容の様相が顕著に見られた図像資料を分類するとともに、その変容の様相から新王国時代におけるチャリオット構造の特筆すべき点について述べる。

2. 資料概要

古代エジプトにおいてチャリオットは第二中間期（前1650–1549年頃）に馬や複合弓、片手剣、短剣を含む様々な武器と共に、西アジアから導入されたと理解されている（Shaw 1999）。文献史料では、第17王朝のカーメス王のステラ（石碑）において初めてチャリオットを意味する単語を確認

することができ、少なくともこの時期にはエジプトにチャリオットが導入された可能性が示唆できる。また、このステラからは、チャリオットが西アジア系の王朝である「ヒクソス」によって使用されていたことが明らかとなっている（Sabbahy 2018: 120）。加えて図像資料からは、王家やエリート貴族がパレードや戦争、狩猟、砂漠地帯での後続の乗り物としてチャリオットを使用している場面がうかがえる。

エジプトのチャリオットは大きく分けて車体部分、車輪部分、長柄部分、衡と軛部分に分けられる（図1）。車体部分には側部に補填のあるものや、車体前にフレームを有するものもあり、車輪はホイール、車輪軸、轆（リンチピン）、轂（スポーク）、タイヤで構成されている。また衡は長柄の先に取り付けられる部分であるのに対し、軛は衡に取り付けられ、直接馬の首の部分と接触する部品を指す。古代エジプトのチャリオットを構成する付属品については、特に戦闘の様子を描いた壁画に見られ、カデシュの戦いのレリーフからはエジプトとヒッタイト・シリアのチャリオットにおいて、矢筒装備の有無や乗車人数などの違いがみられる。このようなチャリオットの装備の違いは、エジプトにおけるチャリオット導入による「複合弓」等の武器や装備の変容といった、それぞれの地域の使用武器の適応によって発生した

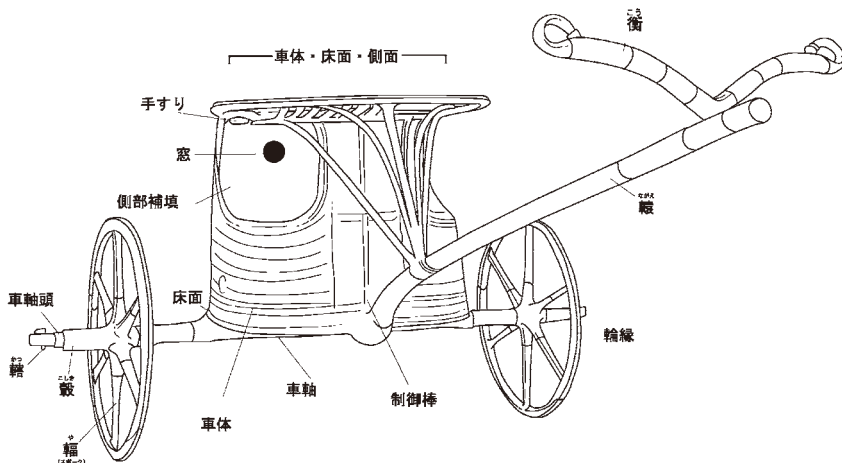


図1 チャリオットの各部位の名称（Littauer and Crouwel 1985：4より作成）

とI.ショウ (Shaw) により指摘されている (Shaw 2012: 92)。

3. 先行研究

古代エジプトのチャリオットについては、その起源や用途、使用武器との関連性、チャリオット導入後の社会変化など多岐にわたる研究が進められてきた。

エジプトにおいて、初期のチャリオットに関連する考古遺物として車輪のスポークが見られ、イアフメス王の母であるイアフヘテプ王妃のテーベの墓出土の小模型が一例に挙げられる (Shaw 2012: 95)。車輪の部品など部分ごとの出土例は多い一方、完形のチャリオットについてはアメンヘテプ 2 世治世の高官ケンアメンが所有していたとされるテーベ出土のチャリオット 1 台、ユヤとチュウヤのチャリオット 1 台、ツタンカーメン (トウトアंकアメン) 王のチャリオット 6 台と出土例が少ない。これら 8 台のチャリオットについて、それぞれの構造や使用された材料に関する研究が行われている他、出土遺物の概観を用いた研究が進められてきた。中でも M. A. リーチャー (Littauer) と J. H. クロウエル (Crouwel) は、上記 6 台のツタンカーメン王のチャリオットと車体部分が残存しているトトメス 4 世のチャリオットについて、車体前のフレームは装飾的で矢筒や弓ケースを装着する目的であった可能性がある点、エジプトの図像に示されたチャリオットの車輪は実際のチャリオットとデザインの見た目が密接に対応している点、車輪のスポークの本数からその図像資料の年代を検討する基準として使用することは困難である点などを示唆している (Littauer and Crouwel 1985)。

考古資料と同様に、図像資料についても車輪のスポークの本数に注目した研究が行われている。中でも Y. ヤディン (Yadin) は紀元前 1400 年前後でチャリオットのスポークの数が増加するとしており (Yadin 1963: 87)、第 18 王朝前半まで 4 本のスポークが伝統的な表現とされる。4 本のス

ポークは、トトメス 4 世 (1419–1386) の治世まで使用され続け、ヘブンの墓に見られる 4 本スポークのチャリオットの図像が最後に確認できる。ほとんどの場合、第 19 王朝および第 20 王朝にはチャリオットの車輪は 6 本のスポークで描かれる傾向にある。このような 6 本スポークでの表現はセティ 1 世、ラメセス 2 世、およびラメセス 3 世の治世に確立されたと考えられるが、スポークを追加する理由はまだ推測に基づいている (Tichindelean : 28–29)。加えて、チャリオットが描かれる主題の年代差については、主に L. サバヒ (Sabbahy) により検証がされており (Sabbahy 2018)、「7–2. 主題との関連性」において詳述する。

4. 研究意義と目的

チャリオットの構造に関する研究については、出土した資料から使用された材や構造から分かる機能についての分析が進められている一方で、出土例が極めて稀であり、類型や年代の研究には検討の余地がある。図像資料については、描かれる主題に関する研究がほとんどで、構造についてはスポークの本数に関する研究が主流となっている。各場面に登場するチャリオットについて、スポークの本数のみならずチャリオット全体の描写について部分ごとに検討し、その構造に関する編年及び特徴の解明に検討の余地があると考ええる。よって、これらの図像資料における各部位の特徴について検討を行うが、取り扱う図像資料は規範が存在していた可能性が高く¹、実物のチャリオットの形状に完全に一致するものではない点に留意する必要がある。そこで、本研究ではチャリオット全体が残存している 8 点の考古遺物と比較することで、チャリオットの構造と装飾の特徴について包括的な検討を行う。これにより、エジプトで変容したチャリオットの装飾や構造の変遷をとらえるとともに、王家と高官のチャリオットの差異やチャリオットの用途による特徴の差異について明らかにすることを目的とする。

5. 研究方法

図像資料における車体の形状表現、車体の装飾表現、車輪の形状表現について、それぞれ観察項目を設けた。通常チャリオットの図像は側部が描かれるため、車体の形状表現として側部のフレームの形状の違いによって分類を行なった。車体の装飾表現については車体の形状表現に密接に関係するため、車体形状の分類をもとに分類した。車輪の形状表現については車輪のスポークの本数と車輪のホイール部分の違いにより分類した。これらの分類を受けて、図像が描写されたと考えられる王の治世順に並べ、王の記念物のチャリオットの図像と貴族墓におけるチャリオットの図像、描かれる場面の観点から量的な分析を行なった。これらの分析結果をもとに年代ごとの変遷及び、描かれる主題や用途による違い、地位による違いについて、その蓋然性を担保するために出土資料と合わせて考察を行なった。

6. チャリオット構造と装飾の分類

図像資料を分析した結果、チャリオットの構造と装飾の様子について、車体表現、装飾表現、車輪表現の3つの観点からの分類を行った。

6-1. 車体表現の分類 (図2)

車体側部のフレームの描写において手すり部分の有無、補填部分の有無、円形の窓部分の有無によって車体は大きくA～D型の4つに分類できる。A～D型については、それぞれ車体フレームの大きさから2つのサブグループに分類することができる。加えて、これらのサブグループはさらに、チャリオット車体の前に前フレームのあるaと前フレームがみられないbに細分化できる。また、分類の表記として、分類型頭に「F」を付けることとする。

・F_A型 (L字フレーム型)

L字型フレームを持ち、側部補填がみられない型。中でも車体の高さに対して側部フレームが半

分以下のもので、前フレームがないF_A1-a型、同様の車体形で前フレームがあるF_A1-b型、車体の高さに対して側部フレームが半分以上あるもので、前フレームがないF_A2-a型、同様の車体形で前フレームがあるF_A2-b型に分類できる。

・F_B型 (L字フレーム補填型)

L字型のフレームを持ち、その窓部分に補填があるもの。中でも車体の高さに対して側部フレームが半分以下のもので、前フレームがないF_B1-a型、同様の車体形で前フレームがあるF_B1-b型、車体の高さに対して側部フレームが半分以上のもので、前フレームがないF_B2-a型、同様の車体形で前フレームのあるF_B2-b型に分類できる。

・F_C型 (有窓補填型)

車体側部全体に補填があり、その補填部分に円形の窓があるもの。このうち、完全に補填のみで、車体のフレーム付近に穴(窓)が見られ、前フレームがないF_C1-a型と、同様の車体形で前フレームのあるF_C1-b型、L字フレームと補填があり、車体のフレーム付近に穴(窓)が見られ、前フレームがないF_C2-a型、同様の車体形で前フレーム















	1		2	
	a	b	a	b
F.A				
F.B				
F.C				
F.D				

図2 車体表現の類型

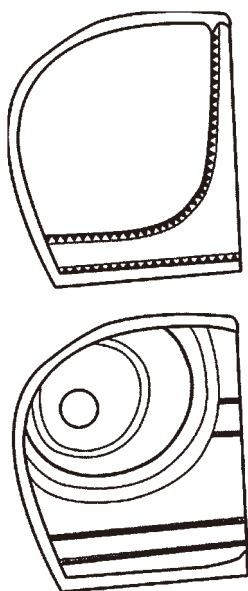


図3 装飾表現の類型

のあるF_C2-b型に分類できる。

・F_D型（全補填型）

L字型フレームを持たず、車体側部全体に補填がみられるもの。完全補填のみで、窓等がみられないもので、前フレームがないF_D1-aと同様の車体形で前フレームがあるF_D1-bに分類できる。

6-2. 装飾表現の分類

車体装飾については、車体側部における補填部分の広さによって大きく2種類に分類することができる（図3）。また、分類の表記として、分類型頭に「D」を付けることとする。

・D_A型

三角形または鋸歯紋の連続模様によるフレームの縁取り装飾で、ほとんどが緑色のフレーム素地に赤の装飾となっておりローゼット文様が見られるものもある。補填部分の狭いF_A1-a型、F_B1-a型で見られる傾向にある。

・D_B型

複数の線及び鋸歯紋による装飾で、太陽円盤を有するコブラの装飾が見られるものもある。フレームの補填部分が広いF_A2-a型、F_B2-a型、F_C1-a型、F_C2-a型で見られる傾向にある。

	1重	2重	3重以上
W_A			
W_B			
W_C			
W_D	・スポークが8本以上 ・1重表現 W_D1	・スポークが8本以上 ・2重表現 W_D2	・スポークが8本以上 ・3重以上の表現 W_D3

図4 車輪表現の類型

6-3. 車輪表現の分類（図4）

車輪の型については、スポークの本数と車輪の表現から分類することができる。スポークの本数に応じて、以下4つに分類することができ、加えてその車輪の表現の違いによってそれぞれサブグループに分類を行う。車輪型の表記として、分類型頭に「W」を付けることとする。

・W_A型

4本のスポークを有する。車輪表現の違いによって、1重で車輪が表現されるW_A1型、2重で車輪で表現されるW_A2型、3重以上で車輪が表現されるW_A3型の3つのサブグループに細分類できる。

・W_B型

6本のスポークを有する。車輪表現の違いによって、1重で車輪が表現されるW_B1型、2重で車輪で表現されるW_B2型、3重以上で車輪が表現されるW_B3型の3つのサブグループに細分類できる。

・W_C型

8本のスポークを有する。車輪表現の違いによって、1重で車輪が表現されるW_C1型、2重で車輪で表現されるW_C2型、3重以上で車輪が表現されるW_C3型の3つのサブグループに分類できる。

・W_D型

8本以上のスポークを有する。車輪表現の違いによって、1重で車輪が表現されるW_D1型、2重で車輪で表現されるW_D2型、3重以上で車輪が表現されるW_D3型の3つのサブグループに分類できる。

ハトシェプスト女王の治世からトトメス4世の治世の図像について主流となる表現であったといえる。アクエンアテン王の治世になると、これまで主流であったF_A1-a型はみられず、様々な型が描かれている様子がうかがえる。特にF_C型（有窓補填型）系統の車体表現はアクエンアテン王からホルエムヘブ王の治世までみられる特有の車体表現であった可能性が高い。加えて前フレームのあるb型系統のチャリオットの図像はアメンヘテプ3世の治世以降の年代にみられるようになる傾向にある。ホルエムヘブ王の治世移行はF_A型系統とF_B型（L字フレーム補填型）系統が主流として変化している様相が見てとれる。

7. 分析結果

7-1. 年代による形状の変化

7-1-1. 車体型の年代変化（図5）

L字型のフレームを持つF_A型（L字フレーム）系統の車体は、ほとんどの年代において確認することができ、特にF_A1-a型（L字フレーム、側部のフレームが半分以下、前フレームなし）は

7-1-2. 装飾型の年代変化

装飾のD_A型（三角形または鋸歯紋の連続模様によるフレームの縁取り装飾）は車体のF_A1-a型、F_B1-a型といった補填部分の狭い車体型で見られる傾向にある一方で、装飾のD_B型（複数の線及び鋸歯紋による装飾）は車体型のF_A2-a型、F_B2-a型、F_C1-a型、F_C2-a型とい

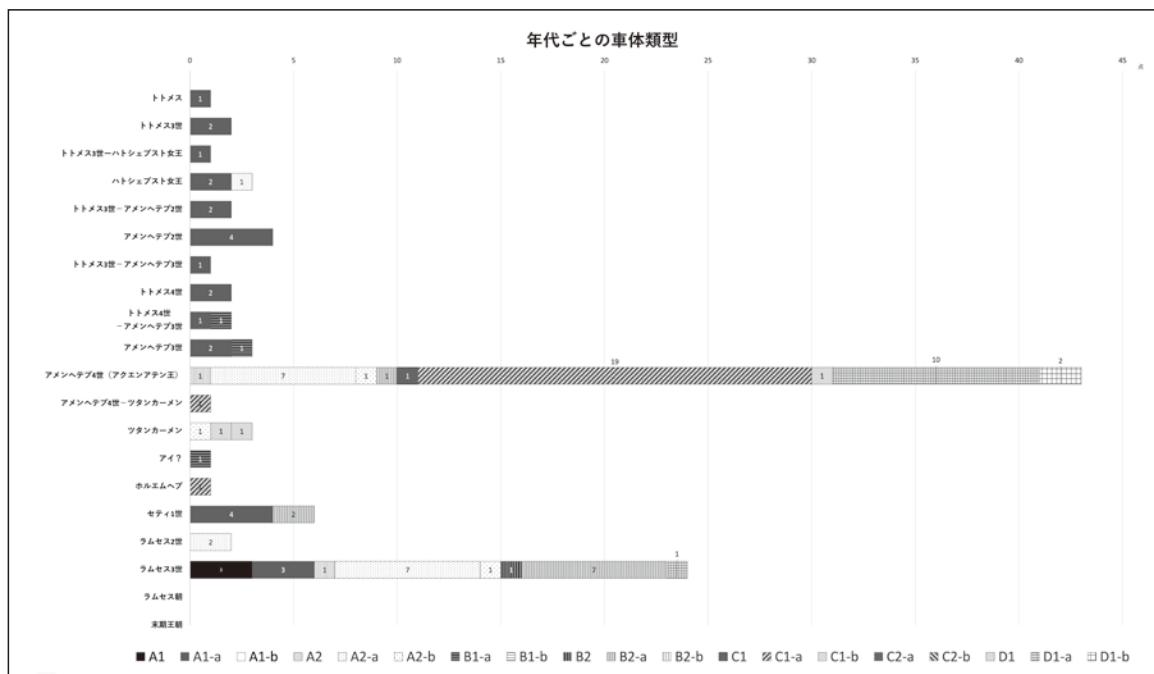


図5 年代ごとの車体類型

た補填部分の広い車体型で見られる傾向にあるように、装飾のD_A型とD_B型の違いは車体型によるところが大きい。それぞれのチャリオット装飾を詳細に観察すると、装飾がされているチャリオットは複数の線や三角形を用いた模様が広くみられるが、特にアクエンアテン王の治世以降、太陽円盤を持つコブラの装飾や直線と矢印の連続模様が何重にも重ねられた模様、捕虜を模した装飾がみられるように、装飾のデザイン性が高くなる傾向にある。一方で、アクエンアテン王の治世以降の図像資料は王家のチャリオットに関するものが多い点に留意する必要がある。

7-1-3. 車輪型の年代変化

全体的に4本スポークから6本スポークへと移行する傾向にある。先行研究では、スポークを追加する要因の一つとして乗車人数の増加が挙げられており、チャリオットの操縦者以外のチャリオット兵である「snny」という称号の出現がみられることから、4本スポークから6本スポークへの移行はトトメス3世治世またはそれ以前に起こったとされている(Hoffmeier 1976: 4)。しかし、実際の考古資料で4本スポークを有するケンアメンのチャリオットと他の6本スポークを有するチャリオットの床面実測値²は幅と奥行き²の双方に大きな違いはなく、4本スポークのチャリオットであっても2人以上の乗車が可能であった可能性も否定できない。加えて図像資料の分析を考慮すると、トトメス4世からアメンヘテプ3世の治世がスポークの本数の移行期間として妥当であると考えられる。また、車輪のホイール部分にあたる部位の表現は、1重表現から2重表現が主流となる傾向にある。18王朝を通して1重の車輪表現がされているが、ツタンカーメン王の治世以降に2重表現が描かれるようになり、19～20王朝の車輪のほとんどは2重表現となっている様子が見える。これらの2重表現は内輪部分がスポークと接続し、外輪は内輪と分離した表現がなされている他、彩色が残存している図像については内輪と外輪の色が異なる点からも、明らかにタイヤの

表現であるといえる。以上の点から、18王朝後半以降からタイヤの表現が普及し、タイヤが重視されるようになったと考える。また、一部に3重表現の車輪も確認できたが、スポーク部分にも同様の線がみられ、木目の表現である可能性を考慮する必要がある。

7-2. 主題との関連性

チャリオットが描かれる場面について様々な主題が挙げられるが、「行進」と「祭祀」の違いのように明確に区別できない主題もある。よって本稿では「公用」、「行進」、「祭祀」、「貢納」、「報酬」といった主題で描かれるチャリオットを非実践的な「公用」とし、「戦闘」、「遠征」、「狩猟」の主題の中で描かれるチャリオットを「実戦用」とする。加えて、「製造」の主題については、別途項目を設けた。

新王国時代のチャリオットが描かれる主題について、第18王朝からラメセス朝(第19, 20王朝)までの年代的な検証がサバヒによって行われている。チャリオットが描かれる高官の墓はトトメス3世の治世までに数多く確認されており、その主題の幅はかなり広いとされる。また、アクエンアテン王の治世では初めて王家関係者が乗車するチャリオットの場面が一般的になり、アマルナの都市計画での道路の重要性に加え、アクエンアテン王が祭祀などを重視したことから、このような変化が生じたと考えられている(Sabbahy 2018: 148–149)。王家のチャリオット使用の図像はラメセス朝の葬祭殿の戦闘場面で頻繁に描かれるようになった一方で、高官の墓壁画ではあまり描かれなくなり、高官の墓の装飾が宗教的な表現となったことによる影響であると示唆される。特に、第19王朝のラメセス2世と第20王朝のラメセス3世の治世では、戦闘場面が神殿の外装装飾の主たるものとなっているが、これ以降大規模な戦闘場面が見られないことから、ラメセス3世以降にはチャリオットの描写を含む大規模な軍事的な図像表現が消失したと推測される(Sabbahy 2018: 149)。本研究で集成した資料からもサバヒ

が示すように、ラメセス朝において戦闘や狩猟といった実戦的な用途としてチャリオットの図像が描かれ、これ以前には公用として描かれるチャリオットの図像が多くみられる傾向にある点が確認できる。

7-2-1. 「公用」チャリオットの車体型の変遷

「公用」のチャリオットの図像は、トトメス4世の治世までは、主題に関係なくF_A1-a型が主流である。アクエンアテン王の治世では、多種多様なチャリオットが「公用」として使用される主題で描かれ、アクエンアテン王の治世以降のチャリオットの車体型はF_C型系統のものが多く見られる傾向にある。

7-2-2. 「実戦用」チャリオットの車体型の変遷

「実戦用」の車体型に注目すると、F_A型系統及びF_B型系統の車体型で描かれる傾向にある。アクエンアテン王の治世以降に多種多様なチャリオットの描写がされる傾向にある点を踏まえると、この時代以降の実際のチャリオットにおいても、実戦用のチャリオット構造としてF_A型系統またはF_B型系統の車体が好まれた可能性が示

唆できる。F_A型系統とF_B型系統のチャリオットは他のF_C型系統やF_D型系統よりも車体の補填部分が軽量となる構造であるようにみられ、その蓋然性が確認できる。加えて、アクエンアテン王の治世の祭祀用チャリオットの図像がF_C型、F_D型といった補填部分に装飾性を持たせられる構造となっている点からも、このような場面によるチャリオットの描き方の違いについて言及することができ得る。

7-2-3. 主題による車輪型の変遷

「年代ごとの車輪類型(図6)」と「年代ごとの主題の変遷(図7)」の双方の資料を参照すると、トトメス4世～アメンヘテプ3世の治世からアクエンアテン王の治世の図像資料を除き、W_A1型(4本スポーク1重表現)の車輪型からW_B2型(6本スポーク2重表現)の車輪型へと移行する様子は、図像の用途が「公用」から「実戦用」へと主流が移行する様子に対応している。また、トトメス4世～アメンヘテプ3世の治世からアクエンアテン王の治世の車輪型はW_B型系統(6本スポーク)が主流となつてはいるものの、車輪は1重表現である。よって、場面主題の主流が公用

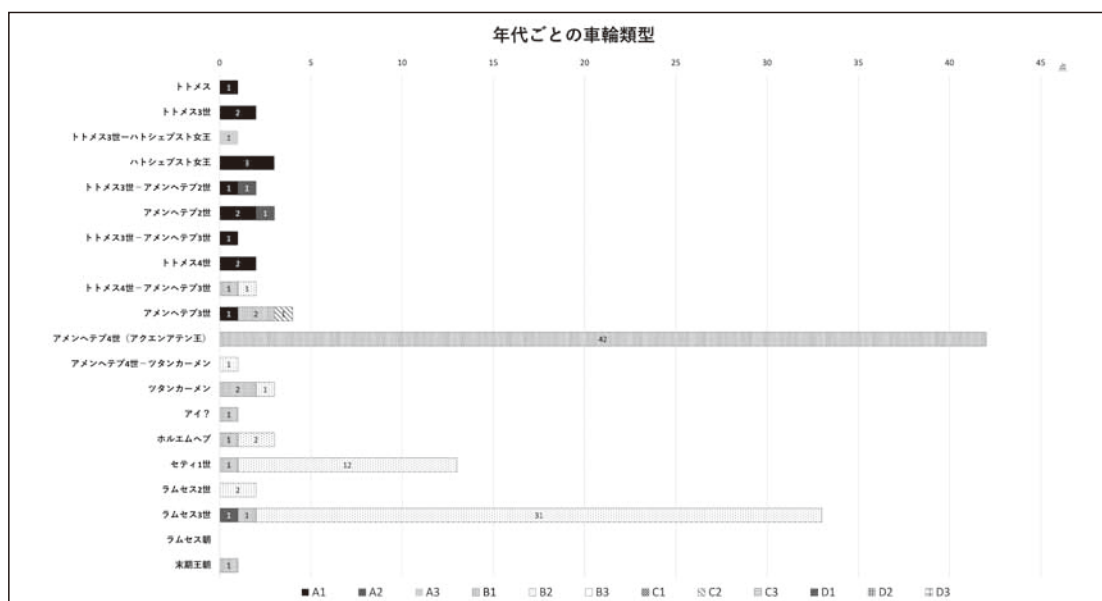


図6 年代ごとの車輪類型

から実戦へと移行するとともに、車輪のタイヤ表現（2重表現）が重視される傾向にあり、実際のチャリオットにおいても、実戦的なチャリオットにおいてタイヤが重視された可能性がある。

7-3. 社会的地位と用途による違い

社会的地位すなわち、王家のチャリオットと高官のチャリオットの違いとしては、前フレームの有無からうかがうことができる。先行研究ではツタンカーメン王のチャリオットA1～A3について、金や象嵌による豪華な装飾の様子から祭事などに使用が限定されていると考えられてきたが（Crouewl 2012: 85）、図像資料の分析から、前フレームのあるチャリオットの図像の主題は祭祀などにおけるチャリオットの「公用」が主流であり、ツタンカーメン王のチャリオットA1～A3について儀礼またはパレード用とされる論を裏付ける結果となった。また、アメンヘテプ3世からラメセス3世の治世のチャリオットの図像資料のほとんどが儀礼またはパレードで使用され、かつ王家のチャリオットの様子を描く図像であることから、このようなチャリオットの特徴の1つとして前フレームが挙げられると考える。

8. まとめ

新王国時代第18王朝におけるチャリオットの描かれ方については、トトメス4世の治世までは車体のF_A1-a型（L字フレーム、側部のフレームが半分以下、前フレームなし）であり、かつ装飾のD_A型（三角形または鋸歯紋の連続模様によるフレームの縁取り装飾）、車輪のW_A1型（4本スポーク1重表現）が、チャリオットを描く際の規範であったことは明らかである。トトメス4世の治世までのチャリオットの出土例には、ケンアメンのチャリオットとトトメス4世のチャリオットの車体部分が確認できる。前者のチャリオットは上記で述べたような規範に比較的類似しているものの、トトメス4世のチャリオットの車体は車体型のF_D型（全補填型）に近く、トトメス4世の治世までのチャリオット図像と実際の考古資料との蓋然性がない点に留意する必要がある。アメンヘテプ3世の治世以降にチャリオットの描写が増加し、特にアクエンアテン王の治世ではアマルナ美術³の影響から多種多様な図像表現が出現した。加えて、リーチャーとクロウウェルが図像資料における車輪が実際のチャリオットの

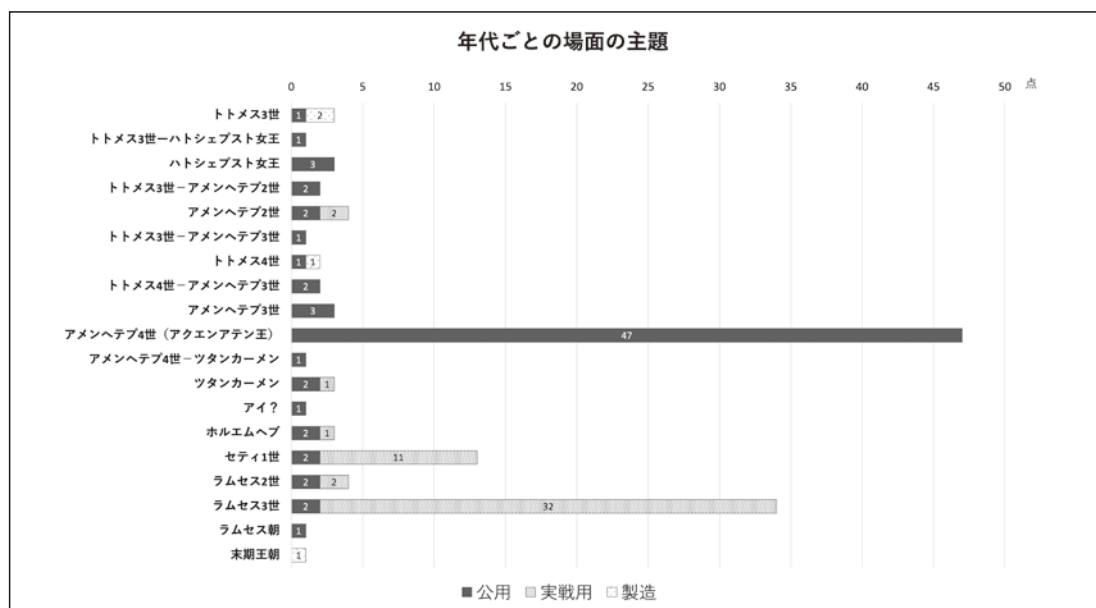


図7 年代ごとの主題の変遷

装飾と見た目に密接に対応していると指摘しているが (Littauer & Crouwel 1985: 78), 車体型についても同様に図像資料とユヤとチュウヤのチャリオットに蓋然性があり, 加えてツタンカーメン王の治世における図像と出土資料の蓋然性も確認できた。よって, エジプトのチャリオットの変遷を見る上で, トトメス 4 世の治世以前の図像については, 本来のチャリオットの形状が反映されない傾向にある一方で, これ以降の図像資料については以前より写實的に描かれたアマルナ美術の影響を受けていることから, 図像は大方実物の特徴を示した表現となっている可能性が高い。

上記を受けて, 本稿では, アクエンアテン王の治世以降を対象に検討を行った。アクエンアテン王の治世では車体は装飾的な F_C 型系統または F_D 型系統であり, 車輪は 6 本スポークで 1 重表現がされる W_B1 型が主流であるといえる。アクエンアテン王の治世以降, 車輪型の主流は 6 本スポークで 2 重表現の W_B2 型へと移行し, 19 王朝では車体の F_A 型系統や F_B 型系統が見られる傾向にある。これは, アクエンアテン王の治世には公的な主題が描かれる傾向にあり, アクエンアテン王の治世以降のラメセス朝には戦闘や狩猟が主題として描かれる傾向にあるというサバヒの説に対して, 描かれる主題の中でチャリオットの図像表現においてもその変遷がうかがうことができる点が明らかとなった。すなわち, 装飾的なチャリオットの車体構造が F_C 型系統や F_D 型系統で, 実戦的なチャリオットの車体構造は F_A 型系統または F_B 型系統であり, 公用から実戦用へのチャリオットの用途の変遷がみられる。加えて, 実戦用のチャリオットについて, 車輪の外部にタイヤを装着する点が重視される傾向にあることが明らかとなった。

謝辞

本稿の執筆にあたり, 指導教官の河合望教授には多大なご指導・ご教授を賜りました。また, 足立拓朗教授をはじめ, 金沢大学考古学研究室の皆様より手厚いご教示をいただきました。最後に貴

重なコメントを賜りました査読者の先生に深く感謝申し上げます。本稿の執筆において, ご指導いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

【注】

- ¹ 古代エジプト美術において古王国時代より人体を描く際にはグリッドラインを使用するなど, 図像の描かれ方には厳密な規範が存在し, 様式化されていた (Robins 1986: 27-28)。特にチャリオットの表現については, ヒエログリフにおける絵文字的性格 (デイヴィズ 1996: 70) が反映されている様子がうかがえる。
- ² チャリオットの床面実測値の幅 (m) × 奥行き (m) はツタンカーメンのチャリオット A1 が 1.02×0.44 , A2 が 1.05×0.46 , A3 が 1.00×0.488 , A4 が 1.11×0.49 , A5 が 1.10×0.54 , A6 が 0.92×0.39 , トトメス 4 世のチャリオット 1.03×0.52 , ユヤとチュウヤのチャリオット 0.90×0.44 , ケンアメンのチャリオット 0.97×0.54 (Littauer and Crouwel 1985: 91) となっており, いずれのチャリオットも幅 1 m 前後, 奥行きが $0.4 \sim 0.5$ m 前後で大きな違いはみられない。
- ³ 一般的にアマルナ美術とはアクエンアテン王治世に栄えた芸術様式を指し, 写實的な表現が特徴とされている (Gaballa 1976: 68)。

【参考資料】

表 1-1 分析図版表

図版番号	年代	図版名	場面	車体型 (F_)	車輪関連		装飾型
					車輪型 (W_)	備考	
1	トトメス	TT39	—	A1-a	A1		—
2	トトメス3世	TT86(1)	製造	A1-a	—		—
3	トトメス3世	TT86(2)	製造	—	A1		—
4	トトメス3世	TT86(3)	公用	A1-a	A1		A
5	ハトシェプスト女王 —トトメス3世	TT155	公用	A1-a	A3	3重表現は木目の可能性あり	—
6	ハトシェプスト女王	TT73(1)	公用	A1-a	A1		—
7	ハトシェプスト女王	TT73(2)	公用	A1-a	A1		—
8	ハトシェプスト女王	ハトシェプスト葬祭神殿	公用	A2-a	A1		—
9	トトメス3世 —アメンヘテプ2世	TT42	公用	A1-a	A1		A
10	トトメス3世 —アメンヘテプ2世	TT100	公用	A1-a	A2	外輪は濃い茶色表現	A
11	アメンヘテプ2世	TT56-1	公用	A1-a	A1		A
12	アメンヘテプ2世	TT56-2	実戦用	A1-a	A2	外輪は濃い茶色表現	A
13	アメンヘテプ2世	TT93	公用	A1-a	—		—
14	アメンヘテプ2世	カルナック神殿/アメンヘテプ2世	実戦用	A1-a	A1		—
15	トトメス3世 —アメンヘテプ3世	TT78	公用	A1-a	A1		—
16	トトメス4世	TT63	公用	A1-a	A1		—
17	トトメス4世	TT66	製造	A1-a	A1		A
18	トトメス4世 —アメンヘテプ3世	TT69	公用	B1-a	B2	外輪は濃い茶色表現	A
19	トトメス4世 —アメンヘテプ3世	TT90	公用	A1-a	B1	一見外輪が濃い茶色で描かれているように見られるが、 車輪全体を囲う線であり、タイヤ表現であるとは言えない	A
20	アメンヘテプ3世	TT57	公用	A1-a、B1-a	A1、C2	8本スポーク→F_B1-a型、2重 4本スポークF_A1-a型、1重	—
21	アメンヘテプ3世	TT89-1	公用	—	B1		—
22	アメンヘテプ3世	TT89-2	公用	A1-a	B1		A
25	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-1	公用	A2-a	B1		—
26	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-2	—	—	—		—
27	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-3	公用	—	B1		—
28	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-4	—	—	—		—
29	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-5	公用	—	—		—
30	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-6	公用	—	B1		A
31	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-7	公用	A2-a	—		—
32	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-8	—	—	B1		—
33	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-9	—	—	—		—
34	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-10	—	—	—		—
35	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-11	—	—	—		—
36	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-12	公用	A2-a	B1		—
37	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-13	公用	A2-a	B1		—
38	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-14	公用	A2-a	B1		—
39	アメンヘテプ4世	アメンヘテプ4世神殿-15	—	—	—		—
40	アメンヘテプ4世	TA1-1	公用	C1-a	B1		B
41	アメンヘテプ4世	TA1-2	公用	—	B1		—
42	アメンヘテプ4世	TA1-3	公用	C1-a	B1		—
43	アメンヘテプ4世	TA1-4	公用	C1-a	B1		—
44	アメンヘテプ4世	TA2-1	公用	C1-a	B1		—
45	アメンヘテプ4世	TA2-2(1)	公用	C1-a	B1		B
46	アメンヘテプ4世	TA2-2(2)	公用	C1-a	B1		—
47	アメンヘテプ4世	TA3	公用	A2-a	B1		—
48	アメンヘテプ4世	TA4-1	公用	C1-a	B1		—
49	アメンヘテプ4世	TA4-2(1)	公用	A2-a	B1		B
50	アメンヘテプ4世	TA4-2(2)	公用	C1-a	B1		B
51	アメンヘテプ4世	TA4-2(3)	公用	C1-a	B1		—
52	アメンヘテプ4世	TA4-3(1)	公用	D1-a	B1		—
53	アメンヘテプ4世	TA4-3(2)	公用	D1-a	B1		—
54	アメンヘテプ4世	TA4-4	公用	—	—		—
55	アメンヘテプ4世	TA5-1	公用	—	—		—
56	アメンヘテプ4世	TA5-2	公用	D1-a	B1		—
57	アメンヘテプ4世	TA6-1(1)	公用	D1-a、C1-a	B1		—
58	アメンヘテプ4世	TA6-1(2)	公用	D1-a、C1-a	B1		—
59	アメンヘテプ4世	TA6-1(3)	公用	A2-b、D1-b	B1		—
60	アメンヘテプ4世	TA6-2	公用	D1-b、C1-b	B1		—
61	アメンヘテプ4世	TA6-3	公用	C1-a	—		—
62	アメンヘテプ4世	TA7-1	公用	C1	B1		—
63	アメンヘテプ4世	TA7-2(1)	公用	—	—		—
64	アメンヘテプ4世	TA7-2(2)	公用	C1-a	B1		—
65	アメンヘテプ4世	TA8-1(1)	公用	D1-a	B1		—
66	アメンヘテプ4世	TA8-1(2)	公用	D1-a	B1		—
67	アメンヘテプ4世	TA8-1(3)	公用	D1-a	B1		—
68	アメンヘテプ4世	TA8-1(4)	公用	C1-a	B1		—

表1-2 分析図版表

図版番号	年代	図版名	場面	車体型 (F_)	車輪関連		装飾型
					車輪型 (W_)	備考	
69	アメンヘテプ4世	TA8-1(5)	公用	C1-a	B1		—
70	アメンヘテプ4世	TA8-1(6)	公用	C1-a	B1		—
71	アメンヘテプ4世	TA8-2	公用	C1-a	B1		—
72	アメンヘテプ4世	TA9-1(1)	公用	—	B1		—
73	アメンヘテプ4世	TA9-1(2)	公用	A2	B1		—
74	アメンヘテプ4世	TA9-2	公用	C1-a	B1		—
75	アメンヘテプ4世	TA9-3	公用	D1-a	B1		—
76	アメンヘテプ4世	TA23	公用	B2-a	B1		—
77	アメンヘテプ4世	TA25-1(1)	公用	D1-a	B1		—
78	アメンヘテプ4世	TA25-1(2)	公用	C1-a	B1		—
79	アメンヘテプ4世 —ツタンカーメン	TT40	公用	C1-a	B2	外輪は明らかに分離し外輪は茶色	B
23	ツタンカーメン	ルクソール神殿/ツタンカーメン	公用	D1	B1		—
24	ツタンカーメン	ルクソール神殿/ツタンカーメン	公用	C1-b	B1		—
80	ツタンカーメン	ツタンカーメン箱	実戦用	A2-b	B2	外輪は明らかに分離し外輪は茶色	B
81	アイ?	TT49	公用	B1-a	B1		A
82	ホルエムヘブ	ホルエムヘブ サッカ	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
83	ホルエムヘブ	ホルエムヘブ サッカ	公用	C1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
84	ホルエムヘブ	ホルエムヘブ サッカ	公用	C2-a	B1		B
85	セティ1世	TT51	公用	C2-a	B1		B
86	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-1(1)	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
87	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-1(2)	公用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
88	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-1(3)	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
89	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-1(4)	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
90	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-2(1)	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
91	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-2(2)	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
92	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-2(3)	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
93	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-3	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
94	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-4(1)	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
95	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-4(2)	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
96	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-5(1)	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
97	セティ1世	カルナック神殿/セティ1世-5(2)	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
98	ラメセス2世	バイトエルワリ神殿-1	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
99	ラメセス2世	バイトエルワリ神殿-2	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
100	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-1	実戦用	A1	B1		—
101	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-2	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
102	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-3	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
103	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-4	実戦用	A1	B2	外輪は明らかに分離	—
104	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-5	実戦用	A1	B2	外輪は明らかに分離	—
105	ラメセス3世	カルナック神殿/ラメセス3世-6	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
106	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-1	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
107	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-2	実戦用	C2-a	B2	外輪は明らかに分離	A
108	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-3	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
109	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-4	実戦用	A2	B2	外輪は明らかに分離	—
110	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-5	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	B
111	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-6	実戦用	A2-aまたはB2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
112	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-7	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
113	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-8	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	A
114	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-9	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
115	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-10	実戦用	A1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
116	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-11	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
117	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-12(1)	実戦用	A2-aまたはB2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
118	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-1-12(2)	実戦用	A2-aまたはB2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
119	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-1	公用	A2-b	B2	外輪は明らかに分離	—
120	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-2	実戦用	A2-aまたはB2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
121	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-3(1)	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
122	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-3(2)	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
123	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-4	実戦用	A2-a	B2	4スポークの外国産チャリオット?	—
124	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-5	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
125	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-6	公用	A2-a	A2	外国のチャリオット?	—
126	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-7	実戦用	B2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
127	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-8	実戦用	B2	B2	外輪は明らかに分離	—
128	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-9	実戦用	B2-a	—		—
129	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-10	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
130	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-11	実戦用	—	B2	外輪は明らかに分離	—
131	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-12	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	A
132	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-13	実戦用	A2-a	B2	外輪は明らかに分離	—
133	ラメセス3世	メディネトハブ/ラメセス3世-2-14	実戦用	D1-a	B2	外輪は明らかに分離	—
134	ラメセス朝	TT324	公用	—	—		—
135	末期王朝	TT36	製造	—	B1		—

【参考文献】

- Brock, E. C.
2012 “A Possible Canopy for Tutankhamun”, *Chasing Chariots Proceedings of The First International Chariot Conference (Cairo 2012)*, Sidestone Press, Leiden.
- Crouewl, J.
2012 “Studying the six chariots from the tomb of tutankhamun an update”, *Chasing Chariots Proceedings of The First International Chariot Conference (Cairo 2012)*, Sidestone Press, Leiden.
- Davies, N.de G.
1903 *The Rock Tombs of El Amarna PartsI-The Tomb of Meryra*, The Egypt Exploration Society, London.
1905 *The Rock Tombs of El Amarna PartsII-The Tombs of Panehesy and MeryraII*, The Egypt Exploration Society, London.
1905 *The Rock Tombs of El Amarna PartsIII-The Tombs of Huya and Ahmes*, The Egypt Exploration Society, London.
1906 *The Rock Tombs of El Amarna PartsIV-The Tombs of Penthu, Mahu, and Others*, The Egypt Exploration Society, London.
1908 *The Rock Tombs of El Amarna PartsV-Smaller Tombs and Boundary Stela*, The Egypt Exploration Society, London.
1908 *The Rock Tombs of El Amarna PartsVI-The Tombs of Parennefer, Tutu and Ay*, The Egypt Exploration Society, London.
1923 *The Tomb of Puyemre at Thebes VolumeII The Chapels of Hope*, The Metropolitan Museum of Art, New York.
1927 *Two Ramesside Tombs at Thebes*, The Metropolitan Museum of Art, New York.
1930 *The Tomb of Ken-Amun*, Volume1, The Metropolitan Museum of Art, New York.
1933 *The Tombs of Menkheperasonb, Amenmose, and Another*, The Egypt Exploration Society, London.
1948 *Seven Private Tombs at Kurnah*, The Egypt Exploration Society, London.
1963 *Scenes from Some Theban Tombs*, Griffith Institute, Oxford.
1973 *The Tomb of Nefer-Hotep at Thebes*, Amo Press, New York.
1973 *The Tomb of Rekh-Mi-Re at Thebes*, Amo Press, New York.
- Davies (Nina M. and N. de G.).
1940 “The Tomb of Amenmose (No 89) at Thebes” *The Journal of Egyptian Archaeology*, Volume26, pp.131-6, The Egypt Exploration Society, London.
- Davies, N. M. and Gardiner, A. H.
1936 *Ancient Egyptian Paintings Volume II*, The University of Chicago Press, Chicago.
1936 *Ancient Egyptian Paintings Volume III*, The University of Chicago Press, Chicago.
- Gaballa, G. A.
1976 *Narrative in Egyptian Art*, Verlag Philipp von Zabern, Mainz.
- Hartwig, M. K.
2004 *Monumenta AegyptiacaX Serie IMAGO no.2 Tomb Painting and Identity in Ancient Thebes, 1419-1372 BCE2*, Brepols Publishers, Belgium.
- Hoffmeier, J.
1976 “Observations on the Evolving Chariot Wheel in the 18th Dynasty”, *JARCE*, 13, pp.43-45.
- Littauer, M. A. and Crouwel, J.H.
1985 *Tut'ankhamun's Tomb SeriesVIII Chariots and Related Equipment from the Tomb of Tut'Ankhamun*, Griffith Institute Oxford.
- Martin, G. T.
1934 *Topographical Bibliography Ancient Egyptian Hieroglyphic Texts, Reliefs, and Paintings IV. Lower and Middle Egypt*, Griffith Institute, Ashmolean Museum, Oxford.
1960 *Topographical Bibliography Ancient Egyptian Hieroglyphic Texts, Reliefs, and Paintings I. The Theban Necropolis, Part1. Private Tombs*, Griffith Institute, Ashmolean Museum, Oxford.
1987 *Corpus of Reliefs of the New Kingdom from the Memphite Necropolis and Lower Egypt*, Volume 1, KPI, London.
1991 *The Hidden Tombs of Memphis*, Thames and Hudson Ltd, London.
Porter, B. and Moss, R. L. B.
2016 *Tutankhamun's Regent Scenes and Texts from the Memphite Tomb of Horemheb*, Egyptian Exploration Society, London.
- Nicholson, P. T and Shaw, I
2000 *Ancient Egyptian Materials and Technology*, New York.

- Cambridge University Press, New York. Quibell, J.E.
- 1908 *Tomb of Yuua and Thuiu*, Impremerie de l'Institut français d'archéologie orientale, Le Caire.
- Raulwing, P. and Brock, J. C.
- 2009 "The Buhen Horse: Fifty Years after its Discovery (19582008)" *Journal of Egyptian History* 2, pp.1-106.
- Redford, D. B.
- 1988 *The Akhenaten Temple Project*, Vol.2: Rwd-Mnu and Inscriptions, The University of Toronto Press, Tronto.
- Ricke, H, Hughes, G.R. and Wentz, E.F
- 1967, *Beit el-Wali Temple of Ramesses II*, Chicago, Oriental Institute of the University of Chicago Press.
- Robins, G.
- 1986 *Egyptian Painting and Relief*, Shire Publications, UK.
- Rovetta, A, Emanuelli, A, Nasry, I and Helmi, A
- 2000 "Ancient Egyptian Chariots Design and Functional Aspects" *International Symposium on History of Machines and Mechanisms*, Kluwer Academic Publishers, pp.149-154.
- Sabbahy, L.
- 2018 "V.Moving Pictures, Context of Use and Iconography of Chariots in the New Kingdom" *Chariots in Ancient Egypt The Tano Chariot*, A Case Study, Sidestone Press, Leiden.
- Scheil, V.
- 1894, *Mission Archéologique Française*, Leroux, Paris.
- Shaw, I.
- 1999 *Egyptian Warfare and Weapons*, Shire Pubns.
- 2012 *Ancient Egyptian Technology and Innovation: Chariot production: technical choice and socio-political change*, Bristol Classical Press, London.
- Soderbergh, T. S.
- 1957 *Private Tombs at Thebes Volume I Four Eighteenth Dynasty Tombs*, The Griffith Institute at the University Press, Oxford.
- Tichindelean, M. T.
- Date unknown, *The Egyptian Chariotry in the New Kingdom*, University of Liverpool.
- University of Chicago.
- 1930 *Medinet Habu, Volume I*, The University of Chicago Press, Chicago, Illinois.
- 1932 *Medinet Habu, Volume II*, The University of Chicago Press, Chicago, Illinois.
- 1936 *Reliefs and Inscriptions at Karnak*, Volume II, The University of Chicago Press, Chicago, Illinois.
- 1986 *Reliefs and Inscriptions at Karnak*, Volume IV, The Oriental Institute of The University of Chicago, Chicago, Illinois.
- 1994 *Reliefs and Inscriptions at Luxor Temple*, Volume I, The Oriental Institute of The University of Chicago, Chicago, Illinois.
- Waseda University Egyptian Culture Center.
- 1988 *Comparative Studies of Noble Tombs in Theban Necropolis*, Waseda University, Tokyo.
- Wilkinson, C. K. and Hill.
- 1983 *Egyptian Wall Paintings, The Metropolitan Museum of Art's Collection of Facsimiles*, The Metropolitan Museum of Art, New York. W, McLeod.
- Yadin, Y.
- 1963 *The Art of Warfare in Biblical Lands: In the Light of Archaeological Discovery*, Weidenfeld & Nicolson, London.
- ヴィヴァン・デイヴィズ著, 矢島文夫訳, 1996年『大英博物館双書失われた文字を読む2エジプト聖刻文字』学芸書林。